

大内裕和『奨学金が日本を滅ぼす』朝日新書 2017年

質疑応答

A: (レジュメP3より)なぜ今日では奨学金の催促が厳しくなっているのか。

→2004年より日本育英会から日本学生支援機構へと運営が変わったことにより、以前の教育的性格が薄れ、民間金融機関からの借入れへと移行したことで、金融事業としての性格を強めてしまったから。

C: (レジュメP7～9より)奨学金問題の解決策が述べられているが、一番優先すべき課題は何か。

→奨学金を借りている当事者が意識を持つこと。借りている本人が理解していないと、何が問題であるかすら理解できない。

当事者意識を持った上で、

- ・教育費の親負担主義の現在は、親にすべて任せるのではなく、親子で奨学金を理解し話し合っ  
て決めるべき。
- ・また奨学金改善運動等を学生が主体となって行動できると良い。

D: (レジュメP7～8より)貸与型奨学金の改善策が挙げられているが、一番実現できそうなものは何か。

→延滞金の返済順を、延滞金→利息→元金ではなく、元金→利息→延滞金に変えること。

- ・順番を変えるだけだから予算がいらないので(貸与型を減らして給付型を増やすといった策の  
場合、お金がかかるとなるとすぐに実行できない)。
- ・延滞金の返済をしている間は元金が減らないので、延滞金はさらにふくれあがり、学生の負担  
がどんどん大きくなってしまうので。